

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100213		
法人名	株式会社ベストケア		
事業所名	青森第1グループホーム		
所在地	青森県青森市青柳1丁目16番5-1号		
自己評価作成日	令和2年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が病状の重度化や加齢により衰弱して人生の終末期の状態になっても、望む場所で望む生活を維持し、最後まで暮らしていくことができるように、医療機関及びご家族と協力して対応している。また、認知症カフェを開催して、地域の方との交流や利用者様が社会的なつながりにより他者との交流が図られる取り組みをしている。建物は陸奥湾を一望できる位置にあり、季節を感じれる環境(花火大会等)となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院とは、24時間365日体制で支援を受けることができる。利用者の急変時に対応することができ、利用者や職員、家族等の安心につながっている。ホールの大きな窓から、四季折々の陸奥湾の自然を味わうことができる。ねぶた祭りや花火大会を、職員や利用者、家族が楽しむことができるように工夫している。利用者に日常生活状況の情報提供について同意を得たうえでブログ等で紹介し、遠方に居る家族に利用者が身近に感じることができるようにしている。職員は、常に穏やかな暖かい心で利用者と接し、その人らしい暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビング、廊下に理念を掲示している。全職員で理念を共有し、業務の中で反映するように意識して実践につなげている。また、週始めの申し送り時に理念の復唱を行っている。	地域密着型サービスの役割を反映したホーム独自の理念を作成している。朝の申し送り時に唱和する等して理念を共有して、理解を深められるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームのブログで行事や普段の様子等の情報を発信している。コロナ禍前は、近隣の商店で買い物をしたり、町内の行事に積極的に参加するほか、認知症カフェ等を開催して、地域と交流を図っている。	コロナ禍以前は、ホームにて「うみカフェ」の名前で定期的に認知症カフェを開催しており、日頃から近隣の人たちに気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけや認知症の方の相談等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れのほか、運営推進会議等を通して、地域の方々に認知症の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、職員や利用者様、ご家族、地域住民、地域包括支援センターの参加を得ており、意見交換をしてサービスの向上に活かしている。また、身体拘束廃止委員会の取り組みを報告し、適正化に取り組んでいる。	町会の民生委員、利用者の代表や家族がメンバーとなり、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議の場は、認知症の理解を深める機会となり、メンバーの意見を引き出し、今後のより良いホーム運営につなげていく内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を行うほか、必要に応じて職員が市役所に出向いて相談をする等、協力を図っている。	メールやファックスで災害対策の情報や連絡事項が届き、必要に応じて課題解決に向けて行政と連携を図っている。また、地域包括支援センターと連携を図り、新型コロナウイルス感染症対策についての情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルや指針に基づいたケアの実践をしているほか、「身体拘束廃止委員会」を設置して、身体拘束の適正化のための委員会を運営推進会議等で開催している。また、やむを得ず身体拘束が必要な際には、身体拘束対象者やご家族への説明と同意を得て、記録に残す体制としている。	マニュアルを整備しているほか、職員は外部研修や勉強会等を通じて、身体拘束の内容と身体拘束による身体的・心理的弊害について理解を深めている。現在は、一人家族等からの強い要望があり、やむを得ず身体拘束（車椅子にベルトを設置）を行っているが、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して虐待の防止に努めている。また、職員の心身の健康状態を把握することで、虐待の未然防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施して理解を高め、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用者様やご家族の要望を聞くと同時に書面で説明を行っている。また、質疑等に十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とコミュニケーションを図り、意見を申し出しやすくしている。また、入居時に苦情相談窓口を説明している。意見投函箱の設置もしている。	日頃から利用者との信頼関係を築けるように心掛けている。日々のケアを通して利用者一人ひとりの状況を注意深く観察して、表情や言動から不満や意見を察するよう心掛けている。個々の生活歴を大切に、話をさりげなく話せるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングを通して、意見や提案を求めたり、個人面談を行い、より良い環境づくりができるように心掛けている。	ユニット毎のミーティングを月1回行っており、業務の改善策等を話し合い、ケアプランの変更等はその機会に共有を図っている。また、個人面談を行って個人的な要望に応えるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	ユニットミーティングや面談を通して、意見や提案をする機会を設けている。また、労働時間の管理や休暇希望に配慮しており、より良い環境づくりができるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成して、内部研修等に全職員が参加できる体制を整えている。また、外部研修終了後には伝達研修を行い、全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍前までは、認知症カフェ等を通して意見交換して、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に、ご家族より利用者様の情報や希望を聞いている。その後、直接利用者様に会って要望や身体状況を把握し、入居後に安心して暮らせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で、ご家族の不安や要望等を傾聴し、丁寧な対応で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の生活歴等の情報をもとに、そのとき必要な支援を見極め、迅速な対応を行っている。また、対応できることについて、利用者様とご家族に確認して柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に敬意をはらっている。暮らしを共にする者同士、協力しながら生活して信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら面会や電話等で、日頃の様子等をご家族に伝えている。一緒に利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様やご家族から馴染みの人や場所を確認して、電話や手紙のやり取りを支援し、関係が継続できるようにしている。コロナ禍前までは、希望する場所に外出できるよう努めていた。	アセスメントや担当職員の記録のほか、全職員で気付き等を情報交換しており、日々のコミュニケーションの中で把握に努めている。また、以前から利用している美容院の利用継続や手紙のやり取りのお手伝い、家族等への年賀状作成の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりを理解して、孤立しないように配慮した環境と雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話連絡や相談に対応できるようにしている。また、退居先の関係者に対して、利用者様の状況やこれまでの情報を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関係を密にして、意見を聞いて把握している。困難な場合は、普段の行動や言動をご家族から情報収集をしている。また、全職員が利用者様のことを考え、意向を把握するよう努めている。	利用者の話を聞くように努めているほか、日々のケアを通じて、利用者の思いや希望・意向を把握できるように働きかけている。全職員が利用者の視点に立って意向等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前利用していたサービスからの情報、会話や行動から生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動を申し送り等を通して全職員が把握している。心身の状態を観察しながら変化に応じて適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにおいて、全職員で心身の状態の変化について話し合っている。また、利用者様とご家族の意見・要望を反映させた介護計画を作成している。	介護計画作成時には、可能な限り利用者の意見を聞くように努めている。また、日々の関わりを通して、利用者の希望を聞けるように働きかけている。家族からは、電話連絡時や面会時に利用者の状況報告を行うとともに、今後の支援について意見や要望を確認して、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、サービス内容に沿った記録を心掛け、全職員で情報を共有している。日々の暮らしや介護計画書等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時々々の要望に合わせた外出支援や医療機関への移送等を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前までは、運営推進会議等で民生委員や地域の方より地域の行事等の情報をいただき、地域の方と交流を図るほか、町内の行事等の参加をしていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの母体が医療機関であるが、利用者様やご家族が希望する医療機関の受診ができる体制を整えている。	入居時に、利用者や家族から聞き取りを行っている。入居後の受診についても意思確認を行い、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、法人母体は病院であるため、24時間体制の受診や往診の支援を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックをもとに、状態観察を行い、気づいた情報を伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者やご家族と密に連絡をとっている。状態に応じて随時話し合い、早期退院に向けた関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から利用者様とご家族に重度化対応・終末期ケア対応指針を説明している。終末期の段階に入った際は、再び意向を確認して医療機関と連携を図りながら、支援する体制を整えている。	入居時に重要事項説明書や「重度化対応・終末期ケア対応指針」で重度化と終末期の対応を説明している。看取りを行う際は、法人母体の病院と24時間の協力体制にあり、職員や家族等の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通して、知識と実践力を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、専門業者立会いのもと、日中・夜間を想定した火災の避難訓練を隣接するグループホームと合同で実施している。水害時における避難訓練も実施している。	年2回、消防安全センターと地域住民の協力を得て、定期的な訓練を行っている。また、年1回、水害訓練として垂直避難訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者である利用者様の自尊心を傷つけないように適切な言葉遣いに配慮している。また、勉強会を通して、振り返りを行って支援に反映している。	利用者の言動を否定したり拒否したりせず、本人の要望に耳を傾けている。利用者と一緒に行動して、納得できる状況を作るように心掛けている。利用者への声掛けや対応については、ホーム全体で確認や改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を伝えたり、自己決定ができる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者様の心身状態を把握して、一人ひとりのペースと希望に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容のほか、洗顔後や入浴後にクリームを顔にぬる等、思い思いに身だしなみを整えることができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に利用者様の嗜好を把握して、その人に合った食事形態で提供している。また、食事を楽しめるように、行事食や嗜好品等も取り入れている。料理の下ごしらえや食器拭き、後片づけ等を職員と一緒にやっている。	食材は外部発注して職員が調理している。好き嫌いや禁忌食品、苦手なもの等に配慮している。また、行事の際は利用者と職員と一緒に献立を考えて、季節を感じられる食事の提供を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分をチェック表を活用しながら把握している。一人ひとりの食事量や習慣に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時、毎食後の口腔ケアを行っている。できることはやっていただき、できないことは声掛けや見守り、一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりのパターンに合わせて、周りに配慮した声掛け等で誘導を行っている。また、非言語コミュニケーション等で排泄の確認を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握している。必要と思われるときには声掛けをしている。トイレの声掛け時は、利用者の羞恥心に配慮して、言葉遣いに注意しながら周囲に気付かれないような対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らないようにしている。乳製品や果物の摂取や定時の体操をして便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた入浴を提供している。羞恥心に配慮して、1対1の同性介助を入浴の基本としている。週2回の入浴を基本としているが、希望時はいつでも入浴可能である。	週2回の入浴を基本としている。時間帯や入浴方法等については、利用者の意向を取り入れている。また、入浴に対する利用者の羞恥心や負担感を理解して支援しており、体調が悪いときは清拭や足浴にする等、負担にならないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣に合わせた休息をしていただけるようにしている。日中の活動を促して夜間の安眠につなげている。また、不眠時は、対話や水分を提供する等して入眠を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、内容と服薬確認を把握している。主治医や調剤薬局と連携等を図りながら、利用者様に薬を提供している。誤薬や飲み忘れがないように、職員間の確認と利用者様の前で名前等の読み上げを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの生活歴や力量を把握して、レクリエーションやアクティビティへの参加を促し、それぞれに楽しみを持ってもらえるように支援している。また、利用者様に役割をもっていただいて、張りのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍のため外出を控えている。以前は、その日の希望に沿って、散歩や買い物に行けるように支援をしていた。季節の外出支援やドライブ、観光も行っている。また、利用者様の身体状況に合わせて、福祉車両を使用して対応している。	天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、利用者の希望を聞きながら日常的にドライブに出かける支援を行っている。日々の会話を通じて、行きたい場所や思い出の場所等を把握できるように働きかけている。お花見やねぶた祭り等の季節を感じてもらえるような外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで預かっているが、使いたいときに使用できるようにしており、出納帳で管理している。また、希望や能力に応じて自身で所持している利用者様もいる。利用者様が支払いを行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により、電話や手紙のやり取りができるように支援している。また、利用者様の力量に合わせて、年賀状の作成を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節を感じる作品を飾っているほか、温度や湿度、外光や照明等に配慮している。リビングの大きく開放的に広がる窓から見える景色で、四季を感じることができ、居心地の良さを感じる工夫を行っている。	壁・扉は木目調で統一され、落ち着いた中にも明るく清潔な印象となっており、ホールや廊下には季節が感じられる手作りの作品が飾られ、ホールの大きな窓から、四季折々の陸奥湾の自然を感じることができ、ねぶた祭りや花火大会を職員、利用者、家族皆が楽しむことが出来る工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置等は、利用者様が一人または複数人でも過ごせるような環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使っていた物や写真を持参していただき、馴染みの環境で過ごせるようにしている。自作の作品を飾る等の工夫も行っている。また、安全に生活できるような家具の配置に配慮している。	入居時には、できるだけ馴染みの物を持ってきてもらうように声掛けしている。持ち込みが少ない場合は、利用者の希望を聞きながら行事で撮った写真や手作りの作品を飾る等して、安心して穏やかに生活ができるよう居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に大きな居室番号を掲示したり、ドアノブになじみのある物等を付けるほか、トイレ等の場所が分かりやすくなるように利用者様の目線に合わせた掲示している。また、バリアフリー等で安全な環境を提供している。		